

<b>講義名</b>	社会調査の基礎			
<b>担当教員</b>	栗田 真樹			
<b>開講期・曜日・時限</b>	後期 木曜日 2時限	<b>授業形態</b>	講義	
<b>履修開始年次</b>	1年生	<b>単位数</b>	2	<b>備考</b>

**主題と概要**

社会科学は理論的な研究だけでなく、「現実」の社会を取り扱っているわけであるから、「実証的」な研究によって実証され、その知見は「実践的」に役立てられなければならない。情報化社会と呼ばれる現代社会においては、情報を収集するためにさまざまな調査が行われているが、科学的に行われる調査は非常に少ない。この授業においては、実証的な研究方法である社会調査について、その意義と諸類型に関する基本的事項についてとりあげ、科学的な社会調査の基礎を修得することを目的とする。

**到達目標**

- 基礎的な社会調査の考え方や諸方法を理解する。
- データ解析の基礎を修得する。
- 現実の社会現象を観察し、自分なりの仮説を立てることができるようになる。
- データから知見を読み取ることができるようになる。

**提出課題**

(対面授業とオンライン授業で課題の量、提出期限、配点に差はありません)  
授業内で毎回課題を課す予定である。  
学期の途中で、レポート試験を予定している。詳細は講義内で指示する。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

授業内で講評・解説します。

**評価の基準**

平常点(講義内課題)、中間レポート試験、期末レポート試験により総合的に評価する。

- 授業中: 講義内課題等 40%
- 中間期: レポート試験(理解度確認試験:記述式) 20%
- 期末期: レポート試験 40%

対面授業(面接授業)とオンライン授業(オンデマンド型)で講義内課題の量、提出期限、配点に差はない。  
対面授業では授業中の態度等を考慮する。  
履修者数によって、評価の基準を修正する場合がある。

**履修にあたっての注意・助言他**

「社会調査士」科目であるので「社会調査」に興味関心があり、積極的に学習しようという意欲のある学生の履修を希望する。  
なお、対面授業(面接授業)と遠隔授業(オンデマンド型授業)の併用予定ですが、対面授業課題・レポート等で他者の解答やホームページのコピー&ペーストが発覚した場合には然るべく処処します。

<b>教科書</b>	『新・社会調査へのアプローチ』	大谷信介ほか	ミネルヴァ書房 2013	2700	9784623066544

**プリント資料及び参考文献**

随時紹介、指示する。そのほか担当者作成の教材(プリント、音声、動画等)を配布する。

**授業計画**

- 社会調査の目的と社会調査士制度
- 社会調査の歴史
- 調査の倫理
- さまざまな調査方法、統計的調査と事例研究方法
- 質問紙調査法1(調査の設計、調査の手順、仮説構成、質問紙の構成)
- 質問紙調査法2(調査の手順、質問項目の設計、質問文と回答の作成)
- フィールドワーク
- 実験的方法、内容分析
- 聞き調査と官庁統計
- 学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチ
- 社会調査データアライヴ
- 量的データと質的データ
- 社会調査データ解析の基礎(単純集計)
- 社会調査データ解析の基礎2(二変数関係分析)
- データ解析に基づく実践

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間(2時間×15回)、予習・復習で60時間(4時間×15回)です。毎回の予習・復習、中間レポート試験、定期試験の準備等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。  
具体的には、授業前に自らの授業内容について教科書の該当部分を読み、要点をまとめておいてください(2時間)、授業後に自らの授業内容を復習し、再度要点をまとめ、疑問点があれば質問できるように記録しておいてください(2時間)。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

- 社会の仕事や働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができます。
- 統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。

以上の学部のディプロマポリシーを達成するため社会調査の基礎的・専門的知識を提供し、実践的に活用できる能力を修得します。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

対面授業(面接授業)を想定していますがオンライン授業との併用となる可能性があります。新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正が発生する可能性があります。その場合には、オンライン授業はスマートフォンで対応できることを基本としますが、カメラ付きのPC、タブレットの利用を推奨します。教材はパワーポイントのビデオ、音声ファイル、PDF等でRyuukaPortal「講義連絡」にアップロードします。まず、アプリとしてはMicrosoft Teams(ビデオ会議)とRespon(出席・課題等のコミュニケーション)が利用できるようにしてあげてください。これらはWebでも利用可能です。

**実務経験の有無及び活用**

各種社会調査の実務経験あり。担当者は「専門社会調査士」資格を保有しています。

**備考**

(対面授業の場合)講義中の私語、不必要な携帯電話、メール等は厳禁とします。「講義妨害」にあたるような場合には、他の履修者の権利を守るため退室してもらうことがありますので注意してください。